

MITSUBISHI

三菱 自然冷媒 ヒートポンプ式電気給湯機 ダイアホット

時間帯別電灯通電制御型

- この製品は、「時間帯別電灯」契約専用です。

SRT-HP521

仕様書

仕様表

形名	セット	SRT-HP521
	ヒートポンプユニット	SRT-HP521HPU
	貯湯タンクユニット	SRT-HP521TU
適用電力制度	季節別時間帯別電灯、時間帯別電灯 通電制御型	
種類（設置場所）	屋外型	
タンク容量	370L	
定格電圧・周波数	単相 200V・50/60Hz	
ヒートポンプユニット	定格加熱能力 ^{※2 ※3}	4.5kW
	定格消費電力 ^{※3}	1.3kW
	夏期加熱能力/消費電力 ^{※2 ※4}	4.5kW/1.2kW
	冬期加熱能力/消費電力 ^{※2 ※5}	4.5kW/1.4kW
	冬期高温加熱能力/消費電力 ^{※1 ※2 ※6}	4.5kW/1.8kW
凍結防止ヒーター	0.1kW（冬期のみ作動）	
最大電流	20A	
沸き上げ温度	約70℃～90℃	
寸法	ヒートポンプユニット	高さ 670mm × 幅 810mm × 奥行き 320mm
	貯湯タンクユニット	高さ 1900mm × 幅 630mm × 奥行き 730mm
質量	ヒートポンプユニット	62kg
	貯湯タンクユニット	約75kg（満水時約445kg）
運転音 ^{※7}	45dB	
最大使用圧力	170kPa	
冷媒名（封入量）	CO ₂ (0.63kg)	
安全装置	漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁	

※1 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。

※2 沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。

※3 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)16℃/12℃、水温17℃、沸き上げ温度65℃

※4 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃、水温24℃、沸き上げ温度65℃

※5 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/4℃、水温9℃、沸き上げ温度65℃

※6 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度90℃

※7 定格条件下での測定 (JISのルームエアコンディショナに準じ測定)

※3、4、5、6、7について

●外気温:理科年表、月別平均気温・湿度 (1961年から1990年までの平均値)

●水温:(社)ソーラーシステム振興協会「ソーラーシステムの設計基準に関する調査研究」(昭和57年9月)

●いずれも東京・大阪の季節別環境条件です。

仕様表

T010501A

別売部品

部 品 名	形 名
台 所 リ モ コ ン	RMC-521K (外形寸法：縦 140mm × 横 125mm × 厚さ 20mm)
浴 室 リ モ コ ン	RMC-521B (外形寸法：縦 100mm × 横 200mm × 厚さ 31mm)
リ モ コ ン ケ ー ブ ル	LM-620 (20m)、LM-650 (50m)、無極性、2芯
浴 槽 ア ダ プ タ ー	GT-D76 (直管おねじタイプ)、GT-D78 (直角おねじタイプ)
絶 縁 パ イ プ	GT-61B (給湯・給水用 0.5m)、GT-62B (ふろ用 0.5m)
ヒートポンプA配管用止水栓	GT-100
ヒートポンプA配管用ストレーナー	GT-110
脚 部 カ バ ー	GT-E521A (正面設置用)
	GT-E521B (横置き設置用)
ア ー ス 棒	GT-30B

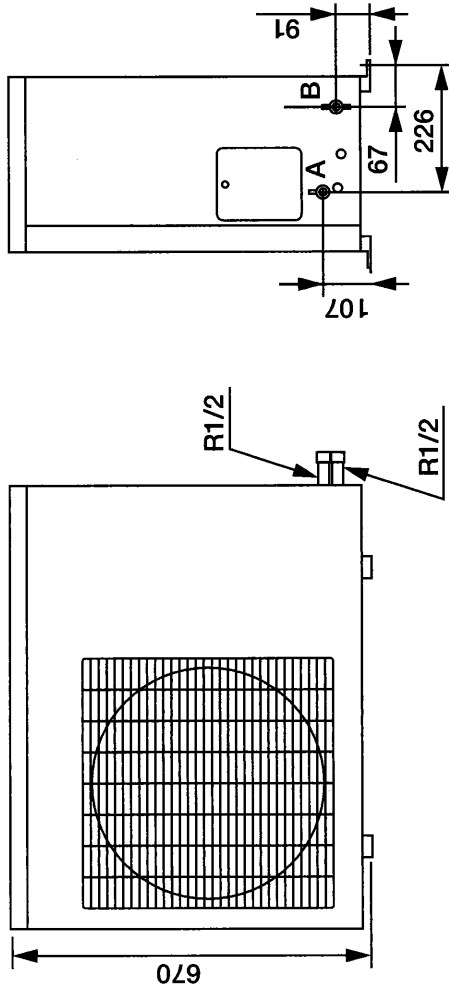
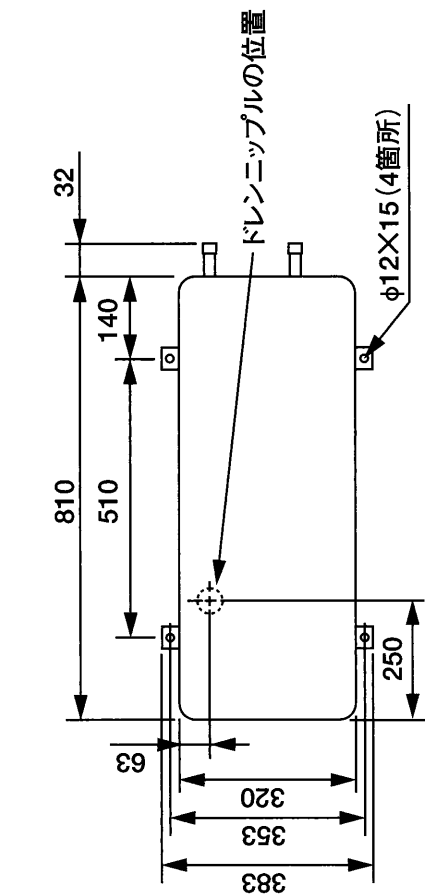
仕様表

T010502A

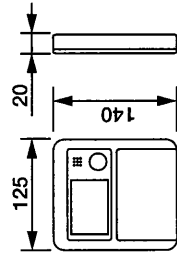


外形寸法図 (寸法単位:mm)

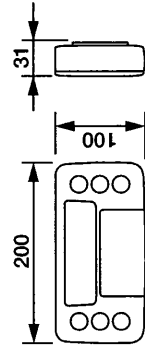
ヒートポンプユニット



台所リモコン (RMC-521K)



浴室リモコン (RMC-521B)



SRT-HP521

時間帯別電灯対応通電制御型
外形寸法図

T010504A

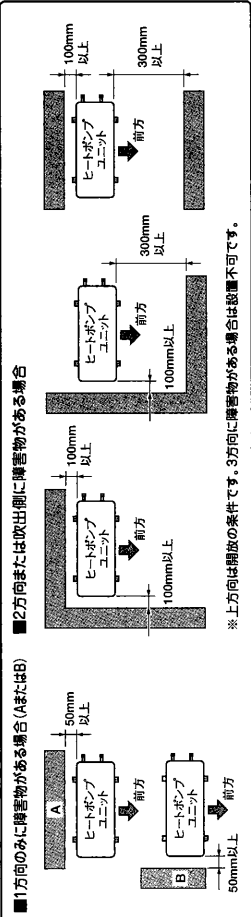
据付工事

据付場所の選定

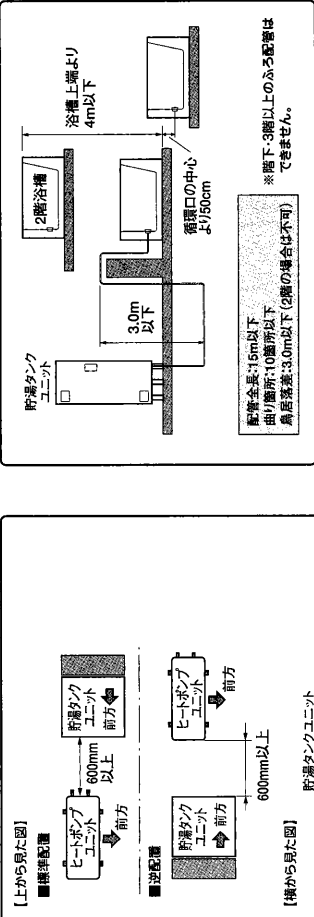
- 機器と建物とのすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
- ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- ヒートポンプユニットは通気性の良い場所へ据え付けてください。
- 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
- 配管による放熱ロスを防ぐため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- 貯湯タンクユニットは屋外据付です。室内(構内)に据え付けず、また、床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
- 浴室など湿気の多い所には据え付けず、また、床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
- 雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けず、また、床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
- 積雪地域へ据え付ける場合は、貯湯タンクユニットは小屋がけをして雪がつかないようにしてください。
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは雪台の上に据え付けてください。
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは雪台の上に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットは凍上げ中および凍結防止運転中に若干の運動音、振動が発生します。また、凍上げ中は冷風が吹きますので、窓の近くや近所の迷惑になる場所への据え付けは避けてください。
- ヒートポンプユニットは強風に当たらない場所を選定してください。(風が当たると稼働時間が長くなります。)
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階に給湯するとき、貯湯タンクユニット設置階の給湯回路に流量絞り弁を取り付けてください。
- ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。(テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生ずることがあります。)

据付場所の制約

ヒートポンプユニット単体の据付制約(上から見た図)



ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約



警告

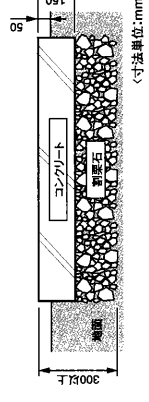
- ヒートポンプユニットは屋内に設置しない。万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。
- ガス類や引火物の近くには据え付けない。死火・火災になることがあります。

ヒートポンプユニットの据付

- ドレンシップルをヒートポンプユニットの下穴に取り付けてください。
- 市販の蛇腹ホース(φ16)をシップルに取り付け、ドレンを排水できる位置へ導いてください。
- 簡易基礎(市販品)を使用して屋外、床置きにて、水平に据え付けてください。
- 積雪地域では、置台の上に設置するなどの雪入り対策をしてください。
- ユニットの脚は必ず簡易基礎に固定してください。

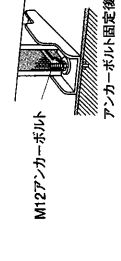
貯湯タンクユニットの据付

- ### 基礎工事
- 貯湯タンクユニット満水時の質量(約458kg)に十分耐える基礎工事をしてください。
 - 床面は防水・排水工事を行ってください。
 - 基礎工事は右図に従って行ってください。
- コンクリート圧縮強度:18MPa (180kg/cm²)以上



脚固定工事

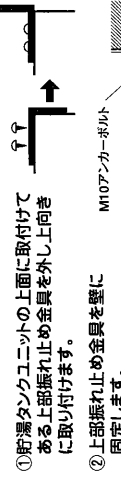
- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用し基礎の上に固定します。3箇所必ず固定してください。
- 必ず水平に据え付けてください。



注意

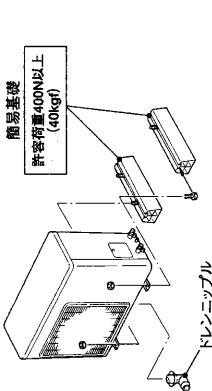
- 貯湯タンクユニットの脚部をアンカーボルトで固定する(けがの原因)

上部振れ止め工事



- ①貯湯タンクユニットの上面に取り付けてある上部振れ止め金具を外し、上向きに取り付けます。
- ②上部振れ止め金具を壁に固定します。

ヒートポンプユニット

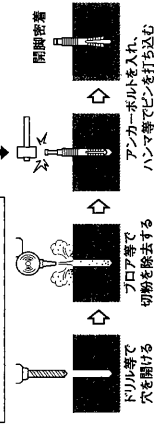


【お願い】

- 原則として、屋外に据え付けてください。
- 基礎は◇形(菱形)にならないよう、対角寸法を確保してください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

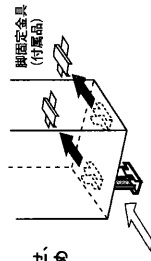
呼び系	ドリル系 (mm)	穴深さ (mm)	50
M12	12.7	50	

おネジ式アンカーボルトの施工例



後脚がアンカーボルトで固定できない場合

- ①付属の脚固定金具をM12アンカーボルトで固定します。
- ②本体を矢印の方向に移動させ、後脚を脚固定金具の爪にはめ込みます。
- ③前脚をアンカーボルトで固定します。



【お願い】

- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

呼び系	ドリル系 (mm)	穴深さ (mm)	35
M10	10.5	35	

SRT-HP521

据付工事

T010505A

配管工事-1

- 上水道を使用する場合は当該水道事業者の条例に基づき認定水道工事業者が施工してください。
- 水は水道法の飲料水質基準に適合した水道水を使用してください。
- 井戸水をご使用しないください。
- 水栓は逆止弁付湯水混合栓を使用してください。使用する蛇口によっては、出湯量が少ない場合があります。特にシャワーはやけと防止のため、サーモスタット付湯水混合栓を使用してください。(サーモスタット付湯水混合栓を使用する場合は、構造により出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。)
- 手元ストロップシャワー、マッサージュシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。
- 給水圧力は200kPa以上を設けてください。

【お願い】

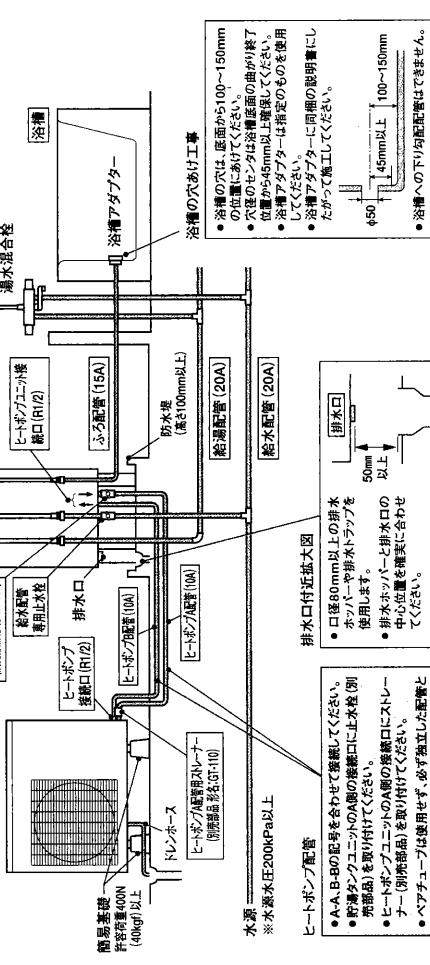
- 配管材料をろう付けした場合は、ろう付け箇所付近に熱割したフラックスを濡れた布できれいに拭き取ってください。
- 湯水配管は、管の膨張収縮がありますので、コンクリート壁やスラブを貫通するときはシーリングを使用し、埋設配管するときは管を固定しないでください。
- 配管接合部のシーリング材は耐熱・耐油性のある材料を使用してください。
- 配管材料はネジ切り・切断などの際、油やゴミが付着しますから、加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから設置してください。
- また、キズやバリがないように、切断後に行ってください。(通水後は各水栓、止水栓は必ず点検してください。)
- 耐熱絶縁管 (HT管など) を接着接続した場合は、接着剤が硬化し剥離しやすくなる場合があります。硬化後に通水してください。

配管例

標準配管例

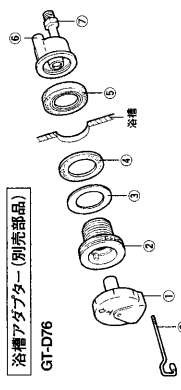
- 給湯用配管 (20A、0.5m) GT-61B (20A、0.5m) GT-62B
 - 給湯用配管 (15A、0.5m) GT-62B
 - 給湯用配管 (15A、0.5m) GT-62B
- ※給湯用配管 (20A、0.5m) GT-61B (20A、0.5m) GT-62B
※給湯用配管 (15A、0.5m) GT-62B
- ※給湯用配管 (20A、0.5m) GT-61B (20A、0.5m) GT-62B
※給湯用配管 (15A、0.5m) GT-62B
- ※給湯用配管 (20A、0.5m) GT-61B (20A、0.5m) GT-62B
※給湯用配管 (15A、0.5m) GT-62B

貯湯タンクユニット (前から見た図)



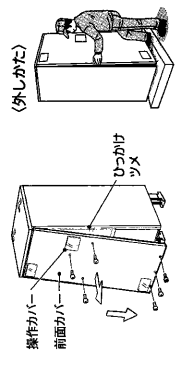
浴槽アダプター取付け工事

- 浴槽アダプターは、設置条件に合わせて専用別部品 (GT-D76またはGT-D78) を使用してください。
- 取付け方法については、浴槽アダプターの工事説明書をお読みください。
- 浴槽の厚さ20mmまで取付け可能です。
- カバーの「上」印が上になるように取付けてください。
- 取付けには別売の専用締付工具 (当社製 GT-75K) を使用してかつかり (15Nm程度) 締め付けてください。



貯湯タンクユニットの前面カバーの外しかた

- 前面カバーのねじ (6本) を外したあと、前面カバーを上げながら手前に引いて降ろします。



注意

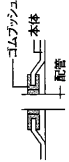
- 水道水を使用する (故障や水漏れの原因)

ヒートポンプ配管・貯湯タンク配管・ふろ配管工事

場所	使用配管材	配管サイズ	絶縁パイプ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	100℃以上の耐熱性、耐油性を有するもの (銅管など)	φ12.7	—	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットのA-A、B-Bを接続してください。 ● A側配管には止水栓 (別売部品) を取り付けてください。 ● A側配管には5mストレーナー (別売部品) を取り付けてください。 ● 配管長さは片道5m、5曲りまでです。 ● 配管の高低差はターナル3m以下としてください。高低差配管はできません。 ● ヘアチューブは使用不可です。A側・B側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。
給湯配管	耐食性を有するもの (銅管など)	20A (3/4B)	GT-61B (20A) (0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 故障や点検など排水するときに必要な、給湯配管専用止水栓を取付けてください。給湯配管専用止水栓はお客さまが操作しやすい場所に取付けてください。 ● 貯湯タンクユニットの給湯接続口に絶縁パイプを取り付けてください。 ● 貯湯タンクユニットの給湯接続口に絶縁パイプを取り付けてください。 ● 貯湯タンクユニットの給湯接続口に絶縁パイプを取り付けてください。 ● 階下給湯はできません。
給湯配管	耐熱・耐食性を有するもの (銅管など)	20A (3/4B)	GT-61B (20A) (0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 途中に絶縁パイプを取り付けてください。 ● 配管長さは15m、10曲りまでです。 ● 配管径はφ13A、φ12.7を使用する場合は6m、5曲りまで ● 階下へのふろ配管はできません。 ● 設置面から浴槽上面までは、4m以下にしてください。 ● 風呂配管は1箇所3.0m以下にしてください。 ● 浴槽アダプターは指定のものを使用してください。 ● フレキ管の使用長さは1m以下にしてください。
ふろ配管	耐熱・耐食性を有するもの (銅管、耐熱樹脂管など)	15A (1/2B)	GT-62B (15A) (0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 口径φ80以上の排水ホッパーや排水トラップおよびφ50以上の排水管を使用してください。 ● 沸き上げ中に貯湯タンクユニットの排水口やヒートポンプユニットのドレンホーより少量のお湯が出ますので、必ず排水工事を行ってください。 ● 最大40L/分程度排水されますので、十分排水できる排水工事をしてください。
排水配管	90℃以上の耐熱性、耐油性を有するもの (HT管など)	φ50以上	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 貯湯タンクユニット設置の際、配管の上層へ給湯管を取り付け、階高による流量パランスを調整してください。 ● フレキ管の使用長さはできるだけ短くしてください。 ● ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合は、パッキン耐熱性ノンアスベストタイプを使用してください。 ● 貯湯タンクユニット底面の各配管口のゴムラック (右図) は、本体と配管の絶縁をしますので外さないでください。 ● また、本体と配管のすきまは、同梱の「すきまシール」で行ってください。(万一、タンク上部から漏水した場合は、大きな設置につながらずお客さまがご自分で、シール方法については付属の工事説明書をお読みください。)

【お願い】

- 貯湯タンクユニット設置の際、配管の上層へ給湯管を取り付け、階高による流量パランスを調整してください。
- フレキ管の使用長さはできるだけ短くしてください。
- ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合は、パッキン耐熱性ノンアスベストタイプを使用してください。
- 貯湯タンクユニット底面の各配管口のゴムラック (右図) は、本体と配管の絶縁をしますので外さないでください。
- また、本体と配管のすきまは、同梱の「すきまシール」で行ってください。(万一、タンク上部から漏水した場合は、大きな設置につながらずお客さまがご自分で、シール方法については付属の工事説明書をお読みください。)



配管工事-1

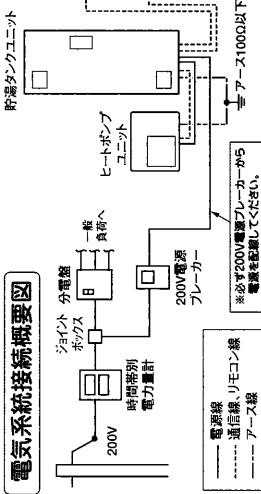
T010506A

SRT-HP521

電気工事

- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
- ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
- 電力契約は必ず「時間帯別電灯」してください。
- 必ずタンクを満水にしたことと各止水栓が閉まっていることを確認してから電源を入れてください。
- 保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種(第3種)接地工事(接地抵抗値100Ω以下)を行ってください。

電気系統接続概要図



必要部材

名称	仕様	備考
電源ブレーカー	単相200V・30A	
電線線種	5.5mm ² (φ2.6)VV線	2芯式、電線一般用2芯2芯ユニット、貯湯タンクユニット用2芯2芯ユニット
通信線	0.3mm ² 以上	2芯式、貯湯タンクユニット用2芯2芯ユニット
PF管	φ28	電線用(電線用)貯湯タンクユニット用、貯湯タンクユニット用
PF管	φ16	通信線用(通信線用)貯湯タンクユニット用
アース線	φ1.6 IV線	2芯式、電線一般用2芯2芯ユニット

貯湯タンクユニットへの配線工事

- 電線線種(電源)→貯湯タンクユニット、貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニットをそれぞれPF管(φ28)に通します。
- 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線(2本)とヒートポンプユニットから貯湯タンクユニットまでの通信線を、PF管(φ16)に通します。
- 電源線(電源)→貯湯タンクユニットを電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続します。
電源線 締付トルク:3.2±0.4N・m (32±4kgf・cm)
- 電源線(貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット)を電源ケーブル口から通し、ヒートポンプ用ターミナルに接続します。
電源線 締付トルク:3.2±0.4N・m (32±4kgf・cm)

- 【お願い】
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
 - 電線線種(VVF(並形))を使用する場合は、VVF専用のクランプを現地調達して、交換してください。
- 電源線2本をケーブル押え板で固定します。
 - 通信線(貯湯タンクユニット～ヒートポンプユニット)をリモコンケーブル口から通し、ヒートポンプ用通信ターミナルに接続します。
通信線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

- 【お願い】
- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
- 通信線をケーブル押え板で固定します。
 - リモコン線2本(台所・浴室リモコン用)をリモコンケーブル口から通し、リモコン接続端子に接続します。
リモコン線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

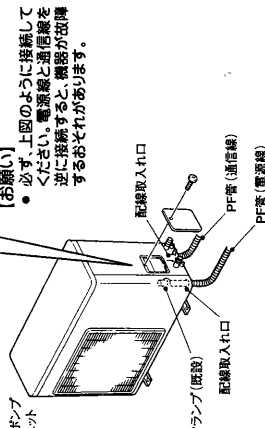
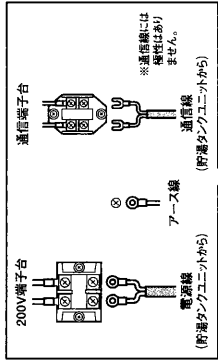
- 【参考】接続端子用圧着工具
- 日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216

警告

- 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒータと配線は100mm以上の距離を確保する(火災の原因)

ヒートポンプユニットへの配線工事

- 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでの電源線をPF管(φ28)に通します。
 - 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでの通信線をPF管(φ16)に通します。
 - 配線を通したPF管を、ヒートポンプユニット下部の配線取り入れ口からユニット内へ通します。
 - クランプ(既設)でPF管(電源線)を固定します。
 - 電源線(電源線)をヒートポンプユニットの200V端子台へ接続します。
電源線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)
 - 通信線(通信線)をヒートポンプユニットのリモコン端子台へ接続します。
通信線 締付トルク:0.6±0.1N・m (6±1kgf・cm)
- 【お願い】
- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。
 - Y型端子(市販品)を圧着して接続してください。



警告

- 必ずアース工事を(感電の原因)

アース工事

- 万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事(接地抵抗100Ω以下)を行ってください。
- 水道管・ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

貯湯タンクユニット

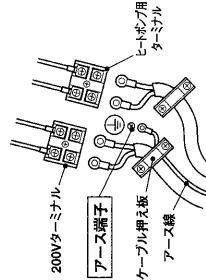
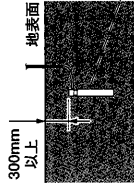
- 貯湯タンクユニット下部の電源ケーブル口から、アース線(市販品)をユニット内へ通し、アース端子(⊕マーク)へ接続します。
締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)
- 【お願い】
- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

ヒートポンプユニット

- ヒートポンプユニット下部の配線取り入れ口から、アース線をユニット内へ通し、アース端子へ接続します。
締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)
- 【お願い】
- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

アース棒の取り付け

- アース線2本をアース棒に接続します。
- アース棒を地中300mm以上の深さに打込みます。



電気工事

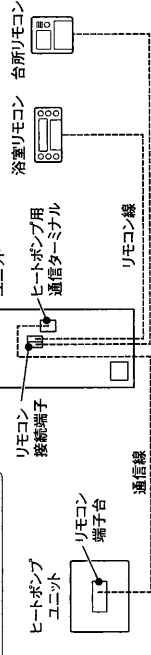
T010508A

SRT-HP521

リモコン工事

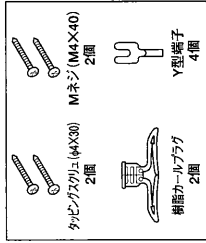
- リモコンは、三菱純正別売部品をご使用ください。別売リモコン以外では、沸き上げできません。
- 通信線、リモコン線は、三菱純正別売部品（形名LM-620またはLM-650）を設置条件に合わせて切断してご使用ください。

リモコン接続概要



台所リモコン取付工事

付属品



取付場所の選定

- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見取れる場所を選んでください。
- 台所リモコンは防水タイプではありません。下記の場所には取付けないでください。
 - ・ガステーブルなど高温（50℃以上）になる場所
 - ・浴室など湿気の多いところ
 - ・直射日光のあたる場所
 - ・湯気や水しぶき、油のつかるところ
 - ・幼児の手が届くところ
- リモコン線の長さが20m以内になる場所としてください。

壁面に取付付ける場合（露出配線）

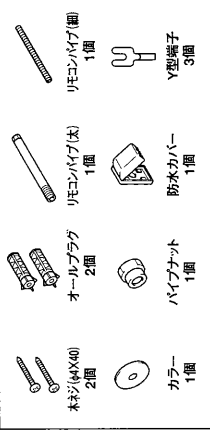
- (1) マイナスドライバーなどで化粧カバーを取り外します。
- (2) ケース上下のネジをゆるめ、リモコン取付台を取り外します。
- (3) リモコン取付台をタッピングスクリュー（付属品：φ4x30）で取付けます。（壁が石膏ボードなど中空の場合は、樹脂カーボルブラグを使用します。）
 - ＜樹脂カーボルブラグの使い、方＞
 - 1.φ4で穴あけ。
 - 2.カーボルブラグを6mm×3箇所、1.5mm間隔に1.5mm深さまで穴あけ、取付台に挿入する。
 - 3.取付台を6mm×3箇所、1.5mm間隔に1.5mm深さまで穴あけ、取付台に挿入する。
- (4) ケースのケーブルポートをニッパなどで切り欠きます。
- (5) リモコン線を付属のY型端子に圧着接続し、リード線止めに止めます。
- (6) ケースをリモコン取付台に元通り取付けます。
- (7) 化粧カバーを元通り取付けます。
- (8) リモコン線を壁に固定し、防湯タンクユニットまで配線します。

リモコン線を壁中に通す場合（埋込配線）

- (1) リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス（1個用）を取り付けておきます。
- (2) リモコン線を電線管を通し、防湯タンクユニットまで配線しておきます。
- (3) マイナスドライバーなどでリモコン化粧カバーを取り外します。
- (4) ケースからリモコン取付台を取り外します。
- (5) 埋込用スイッチボックスから通しているリモコン線を付属のY型端子に圧着接続し、リード線止めに止めます。
 - ※付付トルク:0.6±0.1N・m (6±1kgf・cm)
- (6) リモコン取付台をMネジ（付属品：M4x40）2本で埋込用スイッチボックスに固定します。
- (7) ケースをリモコン取付台に元通り取付けます。
- (8) 化粧カバーを元通り取付けます。

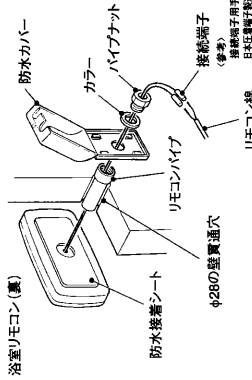
浴室リモコン取付工事

付属品



壁貫通取り付けの場合

- (1) 壁に貫通穴（φ28）をあけます。
- (2) リモコンパイプを壁の厚さに合わせて調整し、リモコン接続端子を通してリモコンにねじ込みます。
- (3) 防水接着シートの台紙をはがし、リモコンが水平になるように壁に張り付けます。
- (4) 屋外で防水カバーのふたをあけ、接続端子を防水カバー・カラーおよびパイプナットを通します。
- (5) パイプナットをリモコンパイプに締め付けます。
- (6) リモコン線の各線を接続端子に挿入し、圧着します。
- (7) 接続部が防水カバー内に取まるようコードクランプで固定します。
- (8) 浴室リモコンと壁の間は水が滲入しないようシール材にて防水処理してください。

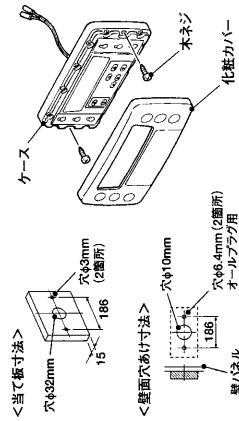
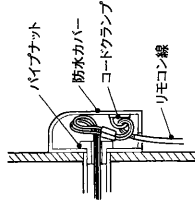
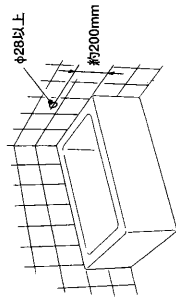


壁面に直取付けの場合（壁内配線）

- (1) 壁面にリモコン線用とリモコン固定用の穴をあけます。
- (2) ユニットバスに取り付ける場合は、壁面裏側に当て板を取付けてください。
- (3) マイナスドライバーなどで、ケースから化粧カバーを取りはずす。
- (4) 両面テープの台紙をはがし、リモコンを壁面に固定するように壁に張り付けます。
- (5) Mネジ（付属品：φ4x40）でケースを壁面に固定します。
- (6) リモコン線の各線を接続端子に挿入し、圧着します。
- (7) 化粧カバーを元通り取付けます。
- (8) 浴室リモコンと壁の間は水が滲入しないようシール材にて防水処理してください。

取付場所の選定

- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見取れる場所を選んでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できる限り濡れや水がかかりにくい場所に取付けてください。
- リモコン線の長さが20m以内になる場所としてください。



SRT-HP521

リモコン工事

T010509A